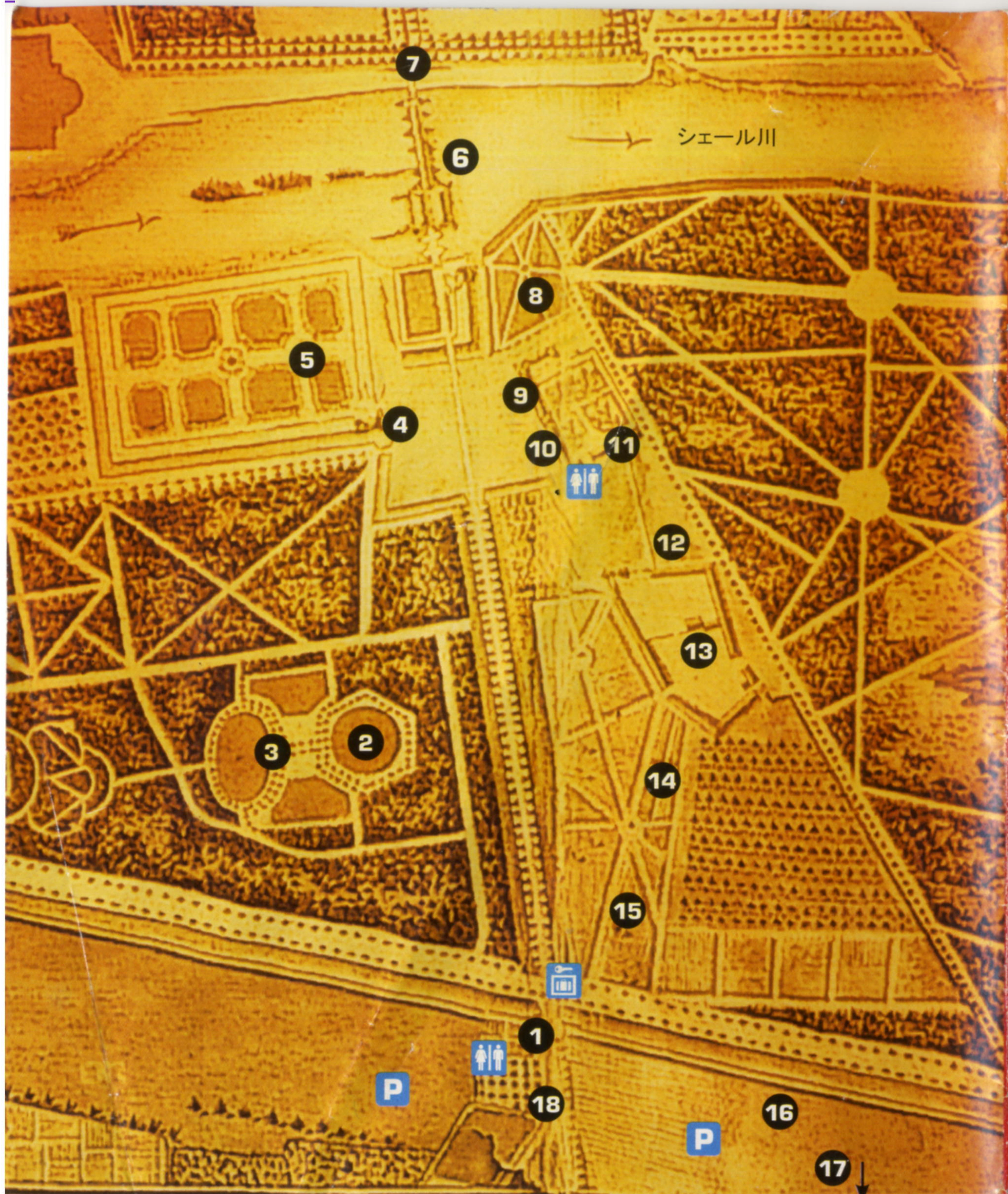




見学用ガイド



château de chenonceau

- | | | |
|-----------------|-------------------|-------------------|
| ① 入場券売り場 | ⑧ カトリヌの庭園 | ⑮ ろばの牧場 |
| ② 迷路 | ⑨ セルフ・サービスのカフェテリア | ⑯ ピクニック・エリア |
| ③ 女像柱 | ⑩ 蠟人形博物館 | ⑰ ピクニック・エリア(屋根あり) |
| ④ 管理人事務所 | ⑪ レストラン・オランジュリー | ⑱ クレープの店 |
| ⑤ ディアーヌの庭園 | ⑫ 子供の遊び場 | P 無料駐車場 |
| ⑥ シュノンソー城 | ⑬ 16世紀の農場 | WC 無料WC |
| ⑦ ルイーズ・デュパンの記念碑 | ⑭ 菜園 | ロッカー 無料ロッカー |

シュノンソー城、貴婦人たちの城



ディアーヌ・ド・ボワティエ
1499 - 1566



カトリーヌ・ド・メディシス
1519 - 1589



ルイーズ・ド・ロレーヌ
1553 - 1601



ルイーズ・デュパン
1706 - 1799



マルグリット・ペルーズ
1836 - ?



シモーヌ・ムニエ
1903 - 1972

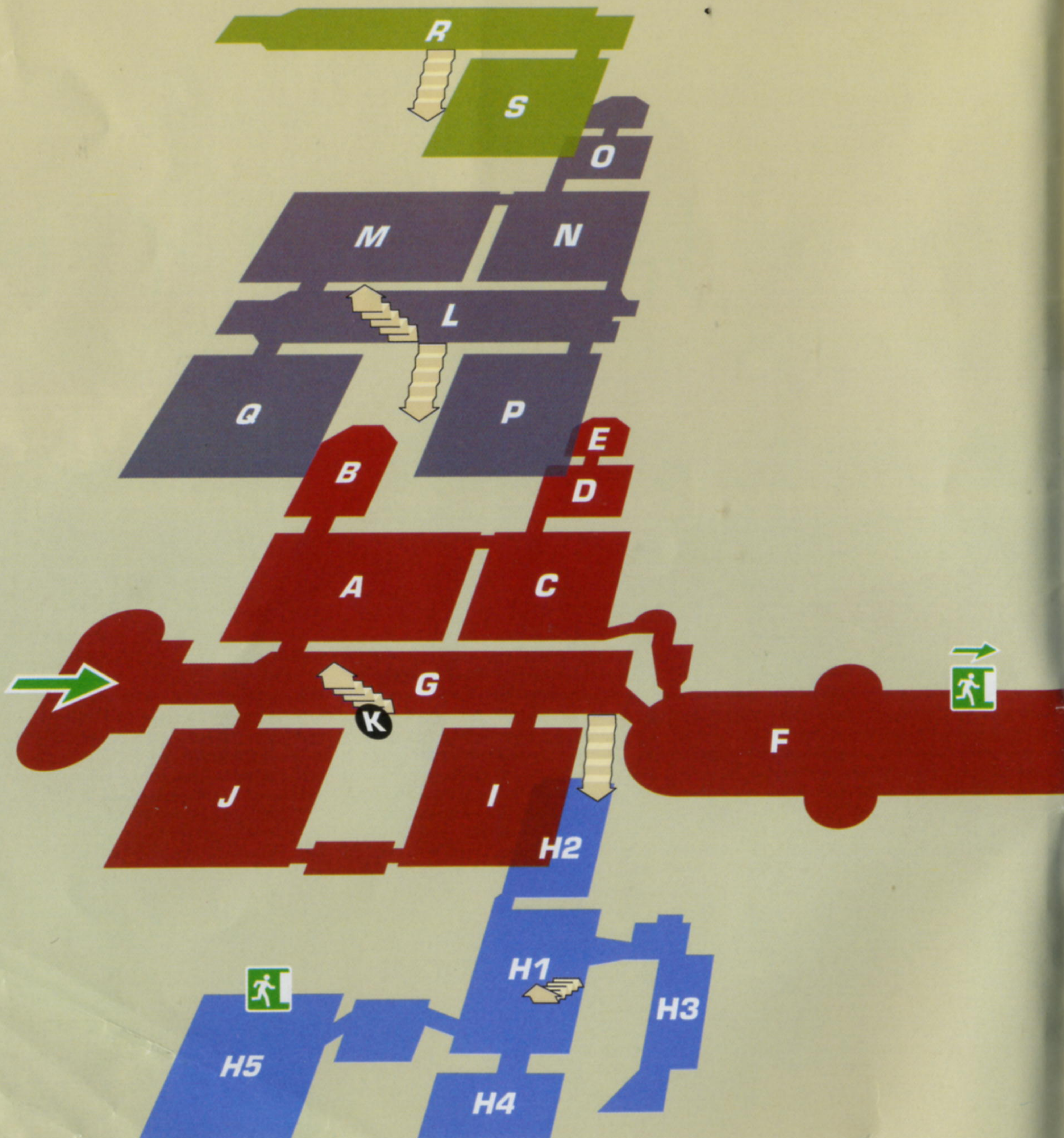
城の案内図

2

1

0

-1



シェール川をまたぐシュノンソー城を建設するため、トマ・ボイエとその妻カトリーヌ・プリソネはマルク家の城塞と水車を16世紀に取り壊し、塔の部分のみ残しました。そしてマルク家の塔はルネッサンス様式に作り変えられました。前庭は、中世の古い城の図面を再現し、堀に囲まれています。塔の脇には、マルク家の紋章であるキマイラと鷲のモチーフが刻まれた井戸が残っています。

要塞となっていた昔の水車の橋脚の上に建てられた城の方へ進むと、壮大な城門が見えます。フランソワ一世の時代に彫刻・彩色されたこの木製の門には、この城を建てたトマ・ボイエとカトリーヌ・プリソネの家紋がそれぞれ左側と右側に見え、その上にはフランソワ一世の紋章のサラマンダーとラテン語の碑文が彫られています：“FRANCISCUS DEI GRATIA FRANCORUM REX - CLAUDIA FRANCORUM REGINA”（神の恵みを受けたフランス王フランソワとフランス王妃クロード）

前庭とマルク家の塔



この部屋に武装した宮廷の護衛が控えていました。

16世紀の暖炉がトマ・ボイエの紋章に飾られています。ルネッサンス期のオーク材の扉の上には、守護聖人(聖カトリヌと聖トマ)の像が置かれ、その下にトマ・ボイエとカトリヌ・ブリソネの次の金言が刻まれています。

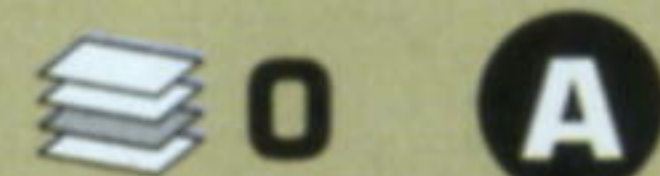
《S'il vient à point, me souviendra》
すなわち、“シュノンソーが完成したならば、私の名は歴史に残る”

壁には、城での生活、結婚の申し込みや狩の場面が織られている、16世紀に作製されたフランドルの一連のタペストリーがかかっています。

ゴシック様式とルネッサンス様式の大箱。16世紀には、その中に銀器、食器、タペストリーがしまわれ、宮廷が城から城へと移動する際に使われました。

天井の梁には、カトリヌ・ド・メディシスの二つの“C”の組み合わせ文字が見られます。床には、16世紀のマジョリカ焼タイルの跡が見られます。

護衛兵の間



護衛兵の間から、聖母マリアの像が上に据えられた扉を通して礼拝堂に入ります。

オーク材のこの扉には、キリストと聖トマが彫られており、聖ヨハネによる福音書からの引用が記されています。“INFER DIGITU TUUM HUC”、“DNS MEUS ET DEUS ME”(“ここに汝の指を置け”“あなたは私の主、私の神”)

ステンドグラスはマックス・アングランの1954年の作品であり、もとのステンドグラスは1944年の爆撃によって破壊されました。

右手のロτζアには、カラーレ大理石に刻まれたミノ・ダ・フィエソーレ作の聖母マリアと幼子キリストの彫刻。

礼拝堂の身廊を見下ろすように置かれた高壇は、王妃がミサに参列するための席で、1521年の日付が記されています。

祭壇の右手の石細工の祭器卓に、ボイエ家の金言が刻まれています。

壁には今も、女王メアリー・スチュワートのスコットランド衛兵隊が刻んだ英語の文が残っています。入口右側には、1543年の「人の怒りは神の裁きを成さず」と、1546年の「悪に征服されるべからず」の言葉が見られます。

壁にかかっている宗教画：

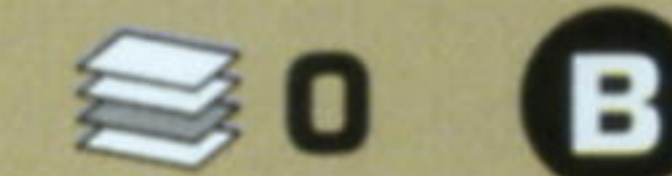
ーイル・サッソフェラート「青いヴェールの聖母」
ーアロンソ・カーノ「フェルディナンとイザベルに説教するキリスト」

ージュヴネ「聖母被昇天」

ームリリオ「パドヴァの聖アントニウス」

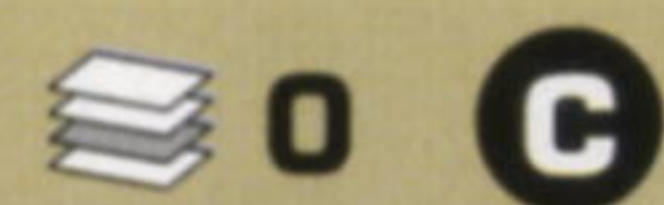
フランス革命の際、当時の城主であったデュパン夫人の知恵により、この礼拝堂は薪の貯蔵庫として使われ、宗教性を隠したため、破壊を逃れました。

礼拝堂



この部屋は国王アンリ二世からシュノンソー城を譲り受けた愛妾、ディアヌ・ド・ポワティエの寝室でした。1559年、アンリ二世が宮廷のスコットランド衛兵隊長ガブリエル・モンゴメリと行った騎乗槍試合で命を落とした後、王妃カトリーヌ・ド・メディシスは未亡人となりました。彼女はディアヌからシュノンソー城を取り戻し、その代わりにショーモン・シュール・ロワール城を与えました。フォンテーヌブロー派のフランス人彫刻家、ジョン・グージョン作の暖炉及び格天井に、アンリ二世とカトリーヌ・ド・メディシスの頭文字、HとCが組み合わされ、ディアヌ・ド・ポワティエのDを描いているように見えます。天蓋ベッド、コルドバ革で作られたアンリ二世の肘掛け椅子、ベッドの脇の見事な寄木細工のテーブルはルネッサンス様式です。19世紀の美しいブロンズ像「アネット城のディアヌ」は王の寵愛を受けた女性を表してしています。また暖炉の上には、ソヴァージュによるカトリーヌ・ド・メディシスの肖像画が見られます。

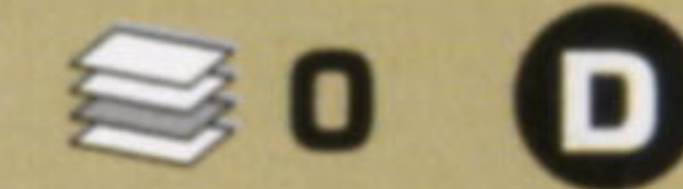
ディアヌ・ド・ポワティエの部屋



16世紀にフランドル地方で織られた二枚のタペストリーは次の場面を表しています。
-「力の勝利」。旧約聖書の登場人物に囲まれ、二頭のライオンが引く戦車に「力」を象徴する人物が乗っています。
上のふちには、ラテン語で「天からの授かりを心から愛する者は、信仰に従い、たじろぐことはない」と記されています。
-「愛徳の勝利」。聖書の場面に囲まれた「愛徳」を象徴する人物が、手に心を持ち、もう片方の手で太陽を指しています。ラテン語の言葉は、「危機に瀕して強い心を示す者には、死した時褒美として救いがもたらされる」と読めます。
窓の左側に、ムリリョの「聖母子」。暖炉の右には、リベラの師、リバルタの「衣服を脱ぎ捨てるキリスト」が飾られています。この絵の下に書棚には、シュノンソーの古文書が保管されています。ガラスケースに陳列されている一冊に、トマ・ポイエとディアヌ・ド・ポワティエの署名を見ることが出来ます。

カトリーヌ・ド・メディシスは夫のアンリ二世亡き後王国の摂政となり、この部屋からフランスを統治しました。16世紀の天井は当時のままで、「C」の組み合わせ文字が見られます。「馬の鈴草様式」と呼ばれる16世紀のブリュッセルのタペストリーは、ゴシックとルネッサンスの両方の様式を取り入れた作品となっています。同時の緑色が青色に変色したその色合いと、アメリカ大陸発見のテーマが独特なタペストリーです。ペルーの銀色の雉、パイナップル、蘭、柘榴など、1492年までヨーロッパで知られていなかった動物や植物が題材となっています。

緑の書斎



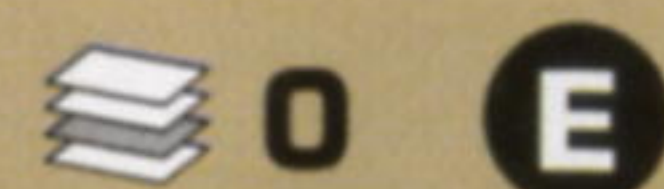
扉の両側の二つのキャビネットは、16世紀のイタリア製です。壁にかけられた絵画コレクションの主な作品：
-ティントレット「シバの女王」と「総督の肖像」
-ヨルダーン「酔ったシーレーノス」
-ゴルシウス「サムソンとライオン」
-ジュヴェネ「神殿から商人を追ひ払うキリスト」
-シュブラン「寓話情景」 金属板に描かれています。
-ヴェロネーズ「女性の顔の素描」
-プーサン「エジプトへの逃避」
-ヴァン・ダイク「果物と子供」

かつて図書室であったこの部屋に、カトリーヌ・ド・メディシスの仕事机がありました。ここからシェール川、中州、ディアヌの庭園のすばらしい眺めが望めます。イタリア様式の、吊要石付きのオーク材の格天井は1552年に作製され、フランスに取り入れられた天井の様式としては初期の頃のものです。この天井に、城を建てたトマ・ボイエとカトリーヌ・プリソネの、T.B.K.の頭文字が見られます。

扉の上の絵画:

- アンドレア・デル・サルト 「聖家族」 その両側に
- バッサーノ「聖ベネディクトゥスの生涯」
- ル・コレージュ(コレッジョ)「殉教者」
- ジュヴネ「ヘリオドール」
- プーサン「オリンポス山にさらわれた神々の酌人、ヘベとガニュメデス」

図書室



ディアヌ・ド・ボワティエの部屋から、細い通路を歩いてギャラリー(回廊)に出ます。

1576年、カトリーヌ・ド・メディシスは、フィリペール・ド・ロルムの設計に基づいて、ディアヌ・ド・ボワティエの橋の上にギャラリーを建設させました。

全長60m幅6mで、18の窓があり、床には石灰岩とスレートを敷き詰め、天井梁が見えるこのギャラリーは、壮麗な舞踏会場でした。1577年に完成した際、カトリーヌ・ド・メディシスは息子である、後のアンリ三世への敬意を込めて宴を催しました。

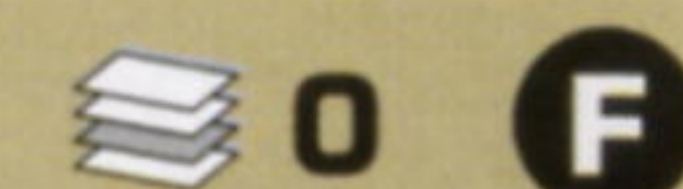
ギャラリーの両端に二つの美しいルネッサンス様式の暖炉が据えられ、シェール川左岸へ続く南側の扉を囲む暖炉は、装飾であり暖炉の機能を果たしていません。

壁にかかっているメダイオンは18世紀に加えられ、著名な人物を表しています。

第一次世界大戦中は、当時の城の所有者であったガストン・ムニエ氏が自費で城を病院に改装し、部屋は全て病院の各業務に割り当てられていました。

第二次世界大戦時、シェール川はドイツの占領地区の境を成していました。城の入口(右岸)は占領地区側に位置していましたが、ギャラリーの南側の扉は左岸の非占領地区に通じており、フランスのレジスタンスは大勢の人々をここから逃がすことが出来ました。戦争中、ドイツ軍は何時でもシュノンソー城を破壊できるよう構えていたのです。

ギャラリー

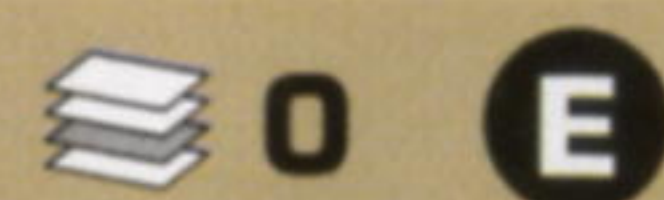


かつて図書室であったこの部屋に、カトリーヌ・ド・メディシスの仕事机がありました。ここからシェール川、中州、ディアーヌの庭園のすばらしい眺めが望めます。イタリア様式の、吊要石付きのオーク材の格天井は1552年に作製され、フランスに取り入れられた天井の様式としては初期の頃のもです。この天井に、城を建てたトマ・ボイエとカトリーヌ・ブリソネの、T.B.K.の頭文字が見られます。

扉の上の絵画:

- アンドレア・デル・サルト 「聖家族」 その両側に
- バッサーノ「聖ベネディクトゥスの生涯」
- ル・コレージュ(コレッジョ)「殉教者」
- ジュヴネ「ヘリオドール」
- プーサン「オリンポス山にさらわれた神々の酌人、ヘベとガニュメデス」

図書室



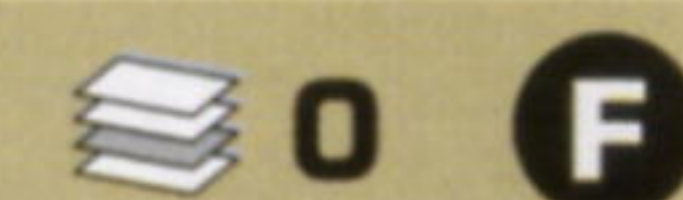
ディアーヌ・ド・ポワティエの部屋から、細い通路を歩いてギャラリー(回廊)に出ます。1576年、カトリーヌ・ド・メディシスは、フィリップ・ド・ロルムの設計に基づいて、ディアーヌ・ド・ポワティエの橋の上にギャラリーを建設させました。

全長60m幅6mで、18の窓があり、床には石灰岩とスレートを敷き詰め、天井梁が見えるこのギャラリーは、壮麗な舞踏会場でした。1577年に完成した際、カトリーヌ・ド・メディシスは息子である、後のアンリ三世への敬意を込めて宴を催しました。

ギャラリーの両端に二つの美しいルネッサンス様式の暖炉が据えられ、シェール川左岸へ続く南側の扉を囲む暖炉は、装飾であり暖炉の機能を果たしておりません。

壁にかかっているメダイオンは18世紀に加えられ、著名な人物を表しています。第一次世界大戦中は、当時の城の所有者であったガストン・ムニエ氏が自費で城を病院に改装し、部屋は全て病院の各業務に割り当てられていました。第二次世界大戦時、シェール川はドイツの占領地区の境を成していました。城の入口(右岸)は占領地区側に位置していましたが、ギャラリーの南側の扉は左岸の非占領地区に通じており、フランスのレジスタンスは大勢の人々をここから逃がすことが出来ました。戦争中、ドイツ軍は何時でもシュノンソー城を破壊できるよう構えていたのです。

ギャラリー



ルイ十四世は、1650年7月14日のシュノンソー訪問を記念し、後にリゴーによる肖像画、オービュッソン織りのタペストリーに覆われた家具、そして高名な家具師ブールの小テーブルを、叔父のヴァンドーム公爵に贈りました。肖像画の見事な額縁はルポートルの作であり、大きな4つの木片のみで組まれています。

ルネッサンス様式の暖炉の上に見られる、サラマnderと白鷲の紋章はフランソワ一世と王妃クロード・ド・フランスの滞在を表しています。

梁天井を囲むコーニスにはボイエ家の頭文字(T.B.K.)が見られます。

小テーブルの上：1889年にスペイン王ジョゼフ・ボナパルト(ナポレオンの兄)から購入した、ルーベンスの「若いキリストとバプテスマのヨハネ」。このサロンには他にも18世紀のフランス絵画のすばらしいコレクションが見られます。

-ファン・ロー「ルイ十五世の肖像画」
-ナティエ「ロアン公爵夫人」
-ネッテル「ルイ十四世の大臣、シャミヤールの肖像」と「男の肖像」
-ラン「スペイン王フェリペ五世の肖像」(ルイ十四世の孫)
また、ミニヤールが描いたルイ十四世の銀行家、サミュエル・ベルナールの大きな肖像画も見られます。
富豪サミュエル・ベルナールは、デュパン夫人の父でもあり、ナティエによる肖像画には、優美と知性あふれる彼女の姿が描かれています。

婚姻関係により、ジョルジュ・サンドの祖母にあたるルイーズ・デュパン(1706~1799年)は、18世紀にシュノンソーの城主となりました。百科全書派を支持し、ヴォルテール、ルソー、モンテスキュー、デイドロ、ダランベール、フォントネル、ベルナルダン・ド・サンピエールを城に迎えました。フランス革命の際、シュノンソーは彼女の人徳により破壊を免れたとされています。

ルイ十四世のサロン

0 J



ホールから16世紀のオーク材の扉を通ると、階段に出ます。

この扉には、古い戒律(一冊の本と巡礼者の杖を持ち、目に包帯を巻いた女性の顔)と新しい戒律(棕櫚と聖杯を掲げ、顔をあらわにした人物)を意味する彫刻が施されています。

二階へ上がる階段は、イタリアの真っ直ぐな(傾斜部分が重なるように作られた)階段を模して、フランスで作られるようになった初期の頃のもので、天井部は傾斜が付いたヴォールト(丸天井)になっており、直角に交差するリブが組まれています。

交差部の合わせ目には要石が配され、格間は人の姿や、果物、花の彫刻で装飾されています(一部はフランス革命時に破壊されました)。

二つの傾斜部は、手すりのあるロτζィアである踊り場で区切られ、ここからシェール川を眺めることができます。

二番目の上り口には、髪が乱れた女性の胸像を表した、当時の美しいメダイオンが飾られています。

階段の他の箇所にも、このようなメダイオンが見られます。

階段

0/1/2 K



二階のホールの床には、短剣に貫かれた百合の花の紋章が押されている、テラコッタの小さなタイルが敷き詰められています。

天井には梁が見えています。

扉の上には、カトリーヌ・ド・メディシスがイタリアから取り寄せた大理石のメダイオンが飾られています。古代ローマの皇帝(ガルバ、クラウディウス、ゲルマニクス、ウィテリウス、ネロ)を表しています。

壁にかかっているのは、ヴァン・デル・ムーレンの下絵による狩の場面が織られた、17世紀のオードナルドの6枚のタペストリーです。ホールから続くバルコニーから、マルク家の塔と前庭を望むことができます。前庭は中世の城塞の跡に位置しています。右側には土手に囲まれ、入口の事務所の管理人が手入れしているディアヌ・ド・ポワティエの庭園が見え、その反対側には真ん中に池を配した、よりひっそりとした佇まいのカトリーヌ・ド・メディシスの庭園が見られます。

カトリーヌ・ブリソネのホール

1 L



この居室は、カトリーヌ・ド・メディシスの二人の娘と三人の義理の娘を記念してこのように名付けられました。

二人の娘は王妃マルゴ(アンリ四世の妃)とエリザベート・ド・フランス(スペイン王フェリペ二世の妃)、三人の義理の娘はメアリー・スチュアート(フランソワ二世の妃)、エリザベート・ド・トリッシュ(シャルル九世の妃)、ルイーズ・ド・ロレーヌ(アンリ三世の妃)です。ルイーズ・ド・ロレーヌの部屋から移動された16世紀の格天井には、5人の王妃の紋章が描かれています。

暖炉はルネッサンス様式です。

壁には、トロイの包囲、ヘレナの略奪、コロセウムでの競技、ダビデ王の戴冠を描いた一連の16世紀のフランドルタペストリーがかかっています。

暖炉の左には、サムソンの生涯を描いたタペストリー。

家具は、大きな天蓋ベッド、二つの女性の顔の彫刻で飾られた極彩色の棚二つ(ゴシック様式)、そして鋳が打たれた旅行用の箱です。壁に飾られている絵画:

-ルーベンス「東方の三博士の訪問」。これはブラド美術館が所蔵する絵画の習作であり、スペイン王から購入しました。

-ミニャール「オロンヌ公爵夫人の肖像」

-17世紀のイタリア派絵画「アルゴ船員アドメスを訪ねたアポロン」

五人の王妃の居室

1 M



この居室には、美しい16世紀の彫刻家具が置かれ、サムソンの生涯を描いた16世紀の一連のフランドルタペストリーで飾られています。これらのタペストリーの特徴は、縁に「ザリガニと牡蠣」や「器用は策略に優る」など、諺や寓話を表す動物が織り込んであることです。暖炉と赤レンガの床はルネッサンス期のものです。

ベッドの右側の木版に描かれたル・コレージュ(コレッジ)の「愛の教育」(天使が愛を象徴する人物となっている)は、同作品の画布版がロンドンのナショナルギャラリーに収められています。

18世紀にデュパン夫人のために装飾された小さな続き部屋は、美しい天井に覆われています。二番目の部屋はシェール川に向かって開いており、1560年の作品から19世紀の水彩画に至るまで、シュノンソー城の素描と版画のコレクションが展示されています。天井と暖炉はルネッサンス期のものです。

カトリーヌ・ド・メディシスの居室

版画展示室

1

N

O

1



ここは王アンリ四世とガブリエル・デストレの息子、ルイ十四世の叔父、そして1624年にシュノンソー城の城主となったヴァンドーム公セザールの思い出が残されている部屋です。部屋には以下の調度品が展示されています。

- 梁の見える美しい天井には、蛇腹を支える大砲が飾られています。
- ルネッサンス期の暖炉は、19世紀に金色に彩色され、トマ・ボイエの紋章が描かれています。
- 西側の窓の両側に、17世紀の木製の女像柱が二本据えられています。

- 壁には、17世紀の三枚の連続したブリュッセルのタペストリーがかかっており、ギリシャ神話のデメテルとペルセポネが描かれています。デメテルの旅(デメテルが人間に果物を与えている場面)、冥界のペルセポネ(ペルセポネは一年のうち6ヶ月を地上で暮らします)など、季節の移り変わりを象徴する神話がテーマになっています。

ブリュッセルのタペストリーの特徴である華麗な縁飾りは、豊穡の角から溢れ出る果物や花をモチーフとしています。

この部屋の天蓋ベッドと家具はルネッサンス期のものです。

窓の左側の絵:

- ムリリョ「聖ヨセフの肖像」

セザール・ド・ヴァンドームの居室

1

P



城の素晴らしいフランス式庭園は、常に季節に合わせて整備され、日々手入れがなされています。
植物の植え替えは毎年春と夏に行われ、城の敷地で13万本の花が栽培されています。

ディアーヌ・ド・ ポワティエの庭園

この庭園の入口には管理人の家(事務所)があり、8つの三角形の芝生と、繊細なワタスギギクの渦巻き装飾で構成されています(12 000 m²)。庭園が造られた当時の噴水が、中央に再現されました。庭を囲む壁の一部に、アイスバーグ種の蔓バラが植えられています。シェール川の増水被害を受けないよう作られた土手の上に、飾り鉢が配してあり、見学者は低木、イチイ、桤、柘植、ローリエが幾何学様を描いて植えられている風景を眺めることができます。夏には、ここで百本以上のハイビスカスが花を咲かせます。

カトリーヌ・ド・ メディシスの庭園

ここはより控えめでありながら(5500 m²)、優雅な印象を与える庭園です。シェール川に囲まれ、庭園内の道からは城の西側のファサードを眺めることができます。上品な円形の池の周辺に5つの芝生の庭があり、池は刈り込まれた柘植で縁取られています。また、バラとラベンダーがバランス良く植えられています。庭園の北側から緑の庭園とオランジュリーへとひらける眺めは、ペルナール・パリッセーの考案によるものです。

菜園

1ヘクタール以上の土地に広がる菜園は見学が可能であり、林檎の木とクィーン・エリザベス種のバラに囲まれた、12の四角形の畑で構成されています。城の園芸家たちは、城の装飾に使われる百種類もの観賞用の花と400本のバラの木を育てています。

また、見学者は、20種以上のトマトやピーマンなど様々な野菜が栽培されている様子を見ることができます。その他に、より珍しいチュペローズやアガパンサスの花が植えられています。昔の温室のなかでは、黄水仙、アマリリス、水仙、チューリップの球根や苗木が育てられています。

農場

見事な16世紀の農場は、菜園に隣接しています。建物の中央には、フラワーアートのアトリエがあります。季節やイベントに合わせて作られる、城のフラワーアートは、城の見所の一つと言えるでしょう。城では、見学者を賓客のように迎えらるよう、常時手入れを行っております。



迷路

城の城の70ヘクタールの林の空地に、カトリヌ・ド・メディシスの命によって、二千本のイチイが植えられた1ヘクタールのイタリア式迷路が作られました。中央の小高い位置に、古い図面を元にして建てられた東屋があり、迷路全体が見渡せるようになっています。東屋は柳で囲まれており、ヴィーナスの像が置かれ、その脇には幼いバックスを抱いたニンフの像が、ヒマラヤスギの柱の上に据えられています。柘植と蔦の植えられている鉢に縁取られている並木道が迷路を囲み、東側にはジョン・グージョンの作品である複数の女像柱が見られます。

ドームの建物

ドームの建物は、中庭に面した昔の宮廷の厩舎でしたが、現在はテラス付きのセルフ・サービス式カフェテリアに改装されています。カフェテリアは3月上旬から11月中旬にかけて、毎日9時30分から18時45分まで開いており、敷地内で軽食を取ることができます。様々なお客様(菜食の方やお子様)の要望にお答えし、お飲み物、アイスクリーム、パンやケーキ類を一日中販売しております。その他のサービスとして、おしめ替えベッドや哺乳瓶を暖める器具を用意しております。この建物の中には蠟人形博物館もあり、城で暮らした優美な貴婦人たちを讃える展示物を見学しつつ、ルネッサンス期から世界大戦までの歴史を一望することができます。



オランジュリーとサロン・ド・テ

城の高級レストラン、オランジュリーでは、洗練された料理を楽しむことができます。レストランのテラスは緑の庭園に向かって開かれており、テラスから庭園の巨大な樹木の数々、ルネッサンス様式の泉、石の胸像を眺めることができます。オランジュリーは3月上旬から11月中旬にかけて、毎日開いております。レストラン内のサロン・ド・テ(喫茶店)は毎日15時から17時まで営業しております。昼食、カクテルパーティー、セミナー、レセプション、家族の集まり等、予約にて承っております。

